

MIFFの変貌と方向 ②

最大の家具生産地モアの現況と課題 日本の家具産業と繋がる企業も

マレーシアにモアという家具集中生産地があることは触れた。梁志傑シヨホール家具工業輸出協会会長兼モア家具協会会長はSWSキャピタルグループ会長、自らソファ工場を経営、日本市場への輸出歴も長い。ここで生産地モアの概況をもういちど紹介する。まずモア家具協会設立は1982年、今年で満35年になる。

後継者らの年齢は全体の70〜80%が40代で占め

マレーシアにモアとい
う家具集中生産地がある
ことは触れた。梁志傑シ
ヨホール家具工業輸出協
会会長兼モア家具協会長
はSWSキャピタルグ
ループ会長、自らソファ
工場を経営、日本市場へ
の輸出歴も長い。ここで
生産地モアの概況をもう
いちど紹介する。まずモ
ア家具協会設立は198
2年、今年で満35年にな
る。

意欲的だ。企業数は約700、輸出企業は約200で、各社平均20から30の下請け企業を持つ。残りの約500が小零細企業だ。大手は100人規模の従業員がいるが、多くは家内工業的内容で数人から10数人、労働者の出身はバンングラディッシュ、ネパール、ミャンマー、ベトナムなど多彩。それでもマレーシアの製品レベルはここ数年アップしてきているという。

素材は80%がゴムの木だが、従来、モア自体にゴムの植林があり素材採取できたが、現在は植林自体も縮小し、現在不足気味になった。代わりにオイルパーム材が増してきた。そのため、オイルパームの家具材活用を研究しているという。

モア家具協会の課題として①外国人労働者も含めて雇用が不安定で、オーダーを受けても対応できない状態が出てきた。

②ゴム材の不足と価格高

騰。生産コストの押し上げ。③デザイン面での技術欠如、などがあげられる。モアの生産地形態は基本的に手加工を主にしつつも大量生産に長けているが、その付加価値に繋がるデザイン面に難がある」と出展者が指摘した。

モアが出展するのは第2会場のMECCだが、出展社約100のうち70社をモアで占めた。因みにモアのユニークさは家具の生産地としてマレーシア最大という他に、以外にも「獅子舞」で知られていることだ。モアの

課題として①デザイン振興。②機械化生産の促進。但し工業生産化への依存はしない。③外国人労働者依存の脱皮、など。

州政府の主導で3年後をめどに工業団地を建設、家内工業的企業を集約する計画。(続く 長島)



モアの活動写真パネル



モア家具協会会長梁志傑と子息